



生瀬

校訓：正義 博愛 勤勉

令和5年9月6日 第6号

大子町立生瀬中学校

文責：校長 山本 一典

大子町内大野2963番地1 TEL.76-0006

HP <http://www.daigo.ed.jp/namase-cyu/>

「何度でも挑戦を！」 スタートラインはいつでも引ける

過日はお忙しい中、多くの保護者の皆様に奉仕作業へ参加していただき誠にありがとうございました。お陰様で、生徒たちはきれいな学校環境の中で9月を迎えることができました。

さて、今年の9月は夏の終わりを告げそうにもなく、連日の暑さが続いています。生徒たちの夏休みは、部活動だけではなく、中央地区英語プレゼンテーションフォーラム、職場体験学習、学習相談、高校見学会、中高生の主張大会、JRCトレセン、輝生祭にむけた練習と貴重な体験活動から多くの学びがありました。この学びをこれからの学校生活に活かしてほしいと思います。

9月の開始にあたり、子どもたちには「スタートラインはいつでも引ける」という言葉を伝えました。1学期のゴールまではあと1か月と少しあります。1学期当初に自分の立てた目標（学習・生活・部活動）をあきらめたり、目標を修正する前に、もう一度仕切り直して挑戦してみようということを話しました。スタートラインを引いたところから、再び自分の挑戦が始まります。あきらめる前に今一度スタートラインを引いて、何度でも挑戦できる人になってほしいと思います。

夏休み中の活躍や体験活動から



3年生3名と2年生1名で構成されたチームです。大子町の代表として中央地区大会に出場しました。自分たちの考えや主張をわかりやすく英語で伝えることができました。学習の成果が十分に発揮できたプレゼンテーションになりました。



7月25日～27日にかけて、職場体験学習を実施しました。どの事業所でも、一人一人が真剣に取り組み、笑顔で楽しく活動していました。2年生の生徒たちは職業体験学習を通して、勤労の貴さや意義を感じ取っていたようです。



2年生2名が出場し、立派な態度で堂々と発表しました。大藤さんは、東日本大震災の話題に触れ、「自分の身のまわりにある、かけがえない幸せに気づき、当たり前なこと全てに感謝してほしい」としっかりと感情豊かに訴えかけました。高橋さんは、「自分らしく生きられる社会へ」という題で、LGBTの話題に触れ、「当たり前は人によって違う、自分が自分らしく生きていける、他者の個性を尊重し合える世の中になってほしい」と力強く訴えかけました。